

2002年度行動計画目標の達成状況

紙資源節減については、純正パルプ全使用量の98%を占める電話帳において、ハローページの発行方法の見直し等による紙資源の節減と古紙配合技術の向上に努めた結果、全体量を対前年度24%削減しました。

温暖化対策については、CO₂総排出量の92%を占める電力使用について、インターネット系通信サービスや他社設備のコロケーション、ハウジング等による電力需要が著しく増大し、その結果CO₂排出量も増加傾向となりましたが、TPR運動の強力な推進により、総排出量を対前年度6.7%増に抑制しました。

なお、社用車排出分については、2002年度よりNTTマーケティングアクトグループ、NTTネオメイトグループを管理対象に加えたことにより管理対象の社用車台数が大幅に増加したため、2002年度よりCO₂排出量が増加しています。

廃棄物対策では、全実行管理項目について産業廃棄物の廃棄量(=排出量-リサイクル量)を対前年度より大幅に抑制でき、全体として約40%削減しました。

下表のとおり、紙資源対策、廃棄物対策については、2002年度目標を大きくクリアできましたが、温暖化対策であるCO₂排出量の抑制については、通信電力需要の増大がIT化という社会動向と不可分の関係にあることから、NTTグループ各社と協力して、情報流通サービスによる社会的な環境負荷低減効果等も視野に入れながら、環境管理手法や2010年度目標値の見直しを検討しています。

行動計画目標 (2010年度目標値)		実行管理項目	2010年度 目標値	1998年度 実績(注)	1999年度 実績	2000年度 実績	2001年度 実績	2002年度 目標値	2002年度 実績	2002年度 の自己評価	2003年度 目標値	掲載 ページ
紙資源節減	純正パルプ 総使用量 1998年レベル 以下にする。	電話帳純正パルプ使用量	3.9	3.6	3.7	3.1	2.5	2.5	1.9		1.8	P17
		電報台紙純正パルプ使用量	0.044	0.0530	0.0352	0.0302	0.0275	0.0254	0.0248		0.0243	P19
		事務用紙純正パルプ使用量	0.047	0.0534	0.0672	0.0311	0.0017	0	0.017		0	P19
		合計(万t)	4.0	3.7	3.8	3.2	2.5	2.5	1.9		1.8	
温暖化防止	CO ₂ 総排出量 1998年レベルの 70%以下にする。	電力使用によるCO ₂ 排出量	10	14.9	15.2	15.6	16.3	16.7	17.4		17.4	P20
		社用車からのCO ₂ 排出量	0.63	0.38	0.39	0.36	0.30	0.75	0.77		0.75	P21
		ガス・燃料消費によるCO ₂ 排出量	0.7	0.78	0.70	0.64	0.70	0.70	0.68		0.67	P22
		合計(万t-c)	11	16.1	16.3	16.6	17.3	18.2	18.9		18.8	
廃棄物削減	産業廃棄物の 最終総廃棄量 1998年レベルの 50%以下にする。	撤去通信設備廃棄物廃棄量	0.5	1.3	1.3	1.1	1.0	0.5	0.2		0.19	P23
		土木工事産業廃棄物廃棄量	0.35	1.2	3.2	2.5	1.4	0.8	1.2		0.4	P26
		建築工事産業廃棄物廃棄量 (管理対象は再資源化率(%))	1.5 (80%)	3.5 (61%)	1.9 (70%)	1.9 (88%)	2.0 (89%)	(80%)	1.2 (88%)		(89%)	P27
		オフィス内産業廃棄物廃棄量	0.28	0.26	0.25	0.44	0.35	0.36	0.32		0.21	P27
		合計(万t)	2.6	6.3	6.7	5.9	4.8	-	2.9		-	-

(注) 1998年度実績は推計値

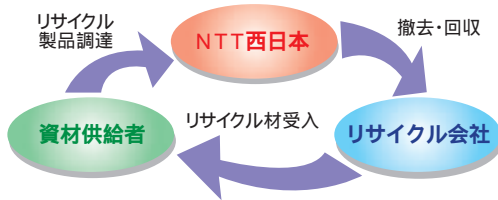
2002年度の環境保護活動の主な取り組み

通信設備のクローズド(循環型)リサイクルへの取り組み(31ページ参照)

ゼロエミッションの実現に向けて、撤去される通信設備廃棄物を自社の使用する物品へマテリアルリサイクルを図るクローズドリサイクルシステムの推進を図っています。

メタル通信ケーブル外被(被覆材)のリサイクルについては、技術的な課題の解決やコスト低減の検討を重ね、通信事業者としては初めてクローズドリサイクルシステムを構築し、2002年度より運用を本格化し、年間約430tのリサイクルを行いました。

また、光ファイバケーブルについても、ケーブル外被のリサイクルについてメタルケーブルと同様のクローズドリサイクルシステムの構築を目指し、検討を進めています。



環境ラベル「ダイナミックエコ」認定情報端末の販売(39ページ参照)

循環型社会構築に向けた環境にやさしい情報端末の提供を推進するため、使用する素材、リサイクル設計、梱包材及び省エネルギー性能に厳しい基準を設け、基準をクリアした商品をダイナミックエコ認定商品と位置付け、当社独自の環境ラベル「ダイナミックエコ」を貼付することとしています。

2001年度に認定第1号商品の販売を開始して以降、順次商品を拡大し、環境負荷の小さい情報端末商品の提供をより一層推進しています。



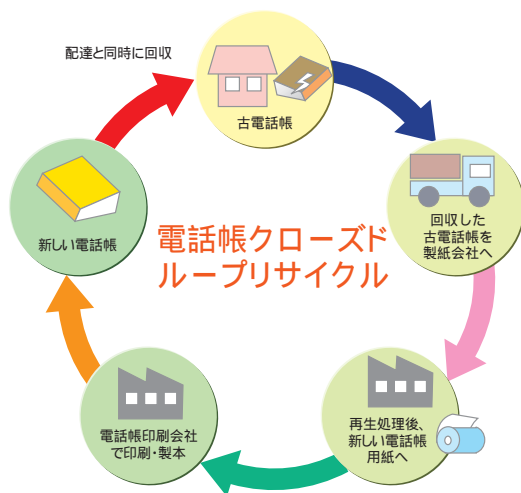
ビジネスFAX OFISTAR B6000



電話帳クローズドループリサイクルの取り組み(18ページ参照)

回収した古電話帳から新しい電話帳に再生する循環型リサイクルシステム「電話帳クローズドループリサイクルシステム」を運用し、古紙の循環使用を推進しています。

本システムの運用のために、原材料となる古電話帳の回収を推進し、回収量を高く維持しています。現在、本システムにより作られた新しい電話帳がお客様の元へ届けられています。



グループ会社における環境への取り組み(43ページ参照)

NTT西日本のグループ会社において、主にお客様の環境負荷低減をサポートする取り組みを推進しています。

NTTネオメイトグループでは、不要となったパソコンのハードディスクのデータ内容を完全に消去できるサービスを2002年度より開始しました。本サービスでは、パソコンのリユースを推進する際に大きな障害となっていた重要データ流出の問題を万全なセキュリティ体制により解決し、パソコンの回収と再利用の普及を支援しています。

また、ネオメイトグループは、効率的な車両配備や運行を目的としてNTTグループ内で培ってきた技術・ノウハウをベースに、一般の企業向けに配車支援システムのサービスを展開しており、自動車燃料の節減や自動車排気ガスの削減を図り、地球環境の保全を支援しています。さらに、トラックの燃料費の削減や事故率減少を図る環境にやさしい運転を支援するためのサービスも展開しています。